

絵本 「葉っぱのフレディ」いのちの旅 2

定年時代 平成18年8月上旬号、
「葉っぱのフレディ(いのちの旅)」童話屋より

「みんな、引越しをする時がきたんだよ。とうとう冬が来たんだ。僕たちは 一人残らずここからいなくなるんだ。」

フレディは悲しくなりました。ここはフレディにとって、居心地の良い夢のような場所だったからです。

「ほくも ここからいなくなるの？」

「そうだよ。僕たちは葉っぱに生まれて 葉っぱの仕事を全部やった。太陽や月から光をもらい雨や風に励まされて 木のために立派な役割を果たしたのさ。

だから 引越すのだよ。」とダニエルは答えました。

「ダニエル 君も引越すの？」とフレディは尋ねました。

「僕も引越すよ。」「それは いつ？」 「僕の番がきたらね。」 「僕はいやだ！ 僕はここにいますよ！」とフレディは大声で叫びました。

アルフレッドもベンもクレアも その時がきたら引越していき見ていると風にさらされて枝にしがみつくと葉もあるし あっさり離れる葉っぱもあります。やがて木は葉を落として裸どうぜんになりました。残っているのはフレディとダニエルだけです。

「引越しをするとか ここからいなくなるとか 君は言っていたけどそれは一」とフレディは胸が一杯になりました。

「死ぬ、ということでしょうか？」 ダニエルは口を固く結んでいます。

「僕 死ぬのがこわいよ。」とフレディが言いました。

「その通りだね。」とダニエルが答えました。

「まだ経験したことがないことは、怖いと思うものだ。でも考えてごらん。世界は変化し続けているんだ。変化しないものは ひとつもないんだよ。春がきて夏になり秋になる。葉っぱは緑から紅葉して散る。変化するって自然なことなんだ。君は、春が夏になる時 怖かったかい？ 緑から紅葉するとき怖くなかったらう？」

僕達も変化し続けているんだ。死ぬということも 変わる一つのつなのだよ。」

変化するって自然なことだと聞いて フレディは少し安心しました。枝にはもう ダニエルしか残っていません。「この木も死ぬの？」 「いつかは死ぬさ。でも“いのち”は永遠に生きているのだよ。」とダニエルは答えました。

葉っぱも死ぬ。木も死ぬ。そうすると 春は生まれて冬に死んでしまうフレディの一生にはどういう意味があるというのでしよう。

「ねえ、ダニエル。僕は生まれてきてよかったのだろうか。」

とフレディは尋ねました。ダニエルは深くうなずきました。

「僕らは春から冬までの間 ほんとうに良く働いたし 良く遊んだね。まわりには月や太陽や星がいた。雨や風もいた。人間に木陰を作ったり 秋には鮮やかに紅葉して皆の目を楽しませたりもしたよね。それはどんなに楽しかったことだろう。それはどんなに 幸せだったことだろう。」

その日の夕暮れ 金色の光の中をダニエルは枝を離れていきました。

「さようなら フレディ。」 ダニエルは満足そうな微笑を浮かべ ゆっくり静かにいなくなりました。

フレディは一人になりました。

次の朝は雪でした。初雪です。やわらかで真白で静かな雪は じんと冷たく身にしみました。その日は一日中どんよりした曇り空でした。日は早く暮れました。

フレディは自分が色あせて枯れてきたように思いました。冷たい雪が重く感じられます。

明け方フレディは迎えにきた風によって枝を離れました。痛くもなく、こわくもありませんでした。フレディは空中にしばらく舞って それからそっと地面におりていきました。

その時はじめてフレディは 木の全体の姿を見ました。なんてがっしりした たくましい木なのでしょう。これならいつまでも生き続けるにちがひありません。

フレディはダニエルから聞いた“いのち”という言葉思い出しました。

“いのち”というのは 永遠に生きているのだ ということでした。

フレディがおりたところは雪の上です。柔らかくて意外と暖かでした。引越し先はふわふわして居心地のよいところだったのです。フレディは目を閉じ 眠りに入りました。

フレディは知らなかったのですが一冬が終わると春がきて雪はとけ水になり 枯葉のフレディはその水にまじり土に溶け込んで木を育てる力になるのです。

“いのち”は土や根や木の中の目には見えないところで 新しい葉っぱを生み出そうと 準備をしています。大自然の設計図は寸分の狂いもなく “いのち”を変化させつづけているのです。

また 春がめぐってきました。 (完)